

『三田市文化芸術ビジョン』概要版

～未来に向かって みんなで創る三田の文化芸術～

総論

三田市文化芸術ビジョン策定にあたって

少子・高齢社会の進展、情報技術の急激な進化など、近年の社会情勢の変化は、文化芸術を取り巻く環境にも大きな影響を与えています。今後10年間で三田市の文化芸術をより充実させていくためには、その方向性を示す指針が不可欠です。団塊世代のリタイアや働き方改革の推進などにより、文化芸術・スポーツ・地域活動など、さまざまな活動が活発化し増加していると考えられます。

以上の事柄を踏まえ、次代を担う子どもたちの文化芸術活動への関わりや市民・実践（演）者が自発的に行う文化芸術活動などを民間事業者によるサポートや大学等の知見なども活用し、あらゆる人や組織がつながる文化芸術活動を行政が下支えすることで、『ともに「する・みる・ささえる・つたえる」』～日常に文化がある、まちづくり～を目指して、文化芸術ビジョンを策定しました。

文化芸術ビジョンの位置づけと期間

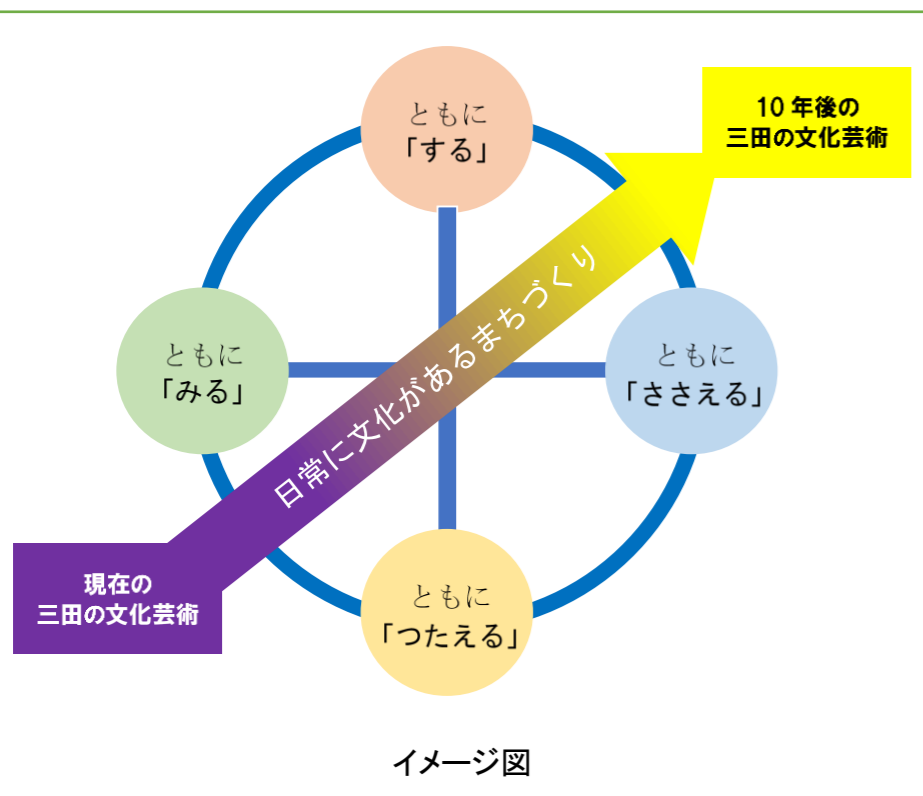
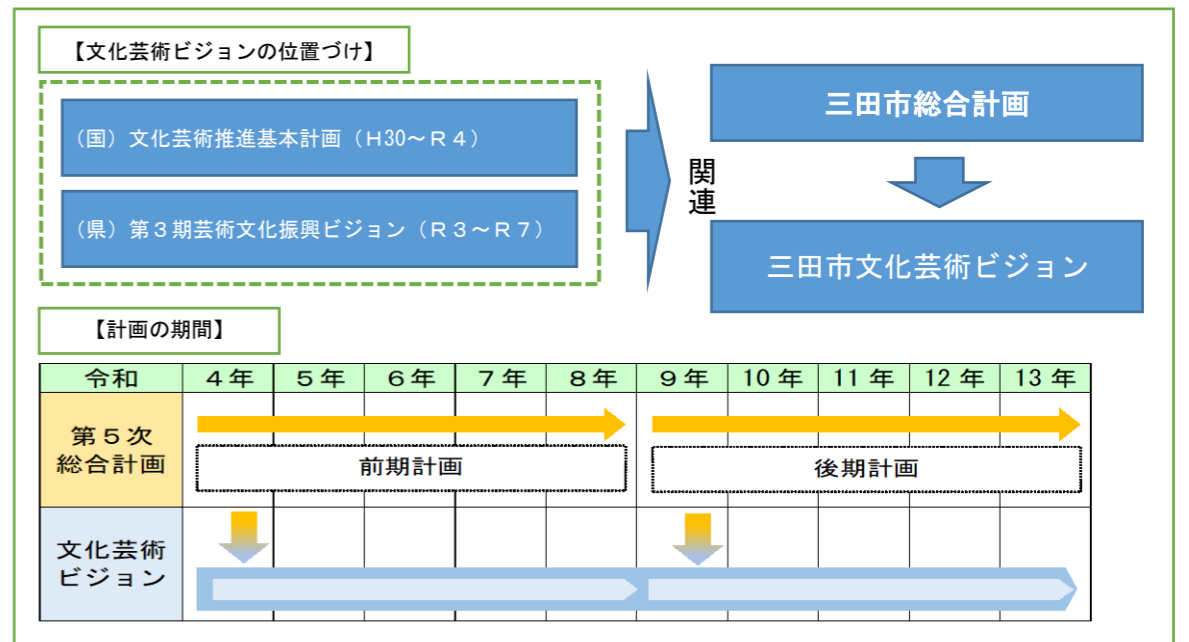
【位置付け】

三田市文化芸術ビジョンでは、今後10年間、三田らしい文化芸術振興施策を総合的に進める上で重要と思われる基本的な考え方を示しています。その時々々の社会情勢に合わせ、市民・団体・行政がともに考え活動できる指針として策定しました。

本ビジョンは、令和4年度施行の「第5次三田市総合計画（令和4年3月）」、平成29年に改正施行された「文化芸術基本法第4条及び第7条の2」に基づき、国の「文化芸術推進基本計画」、兵庫県の「第3期芸術文化振興ビジョン」を踏まえつつ、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」や国の「障害者文化芸術活動推進基本計画」、「三田市教育振興基本計画」等の関連計画と整合を図りながら推進します。

【ビジョンの期間】

令和4年度～令和13年度の10年間とします。



三田市の文化芸術の現状と課題

- 文化施策を取り巻く環境は、全国的に担い手の高齢化や、活動拠点施設の老朽化などの課題を抱えており、三田市においても伝統文化芸術の継承者不足や持続可能な活動拠点施設の維持管理、情報発信の強化が大きな課題となっています。
- 市行政とすべての市民が協働して文化施策を推し進めるためには、市民一人一人が文化芸術活動の担い手であるという当事者意識を高める必要があります。

文化芸術の定義

文化芸術の定義は、文化芸術基本法第八条～第十三条に規定されている、芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化・国民娯楽、文化財等を基本とします。

また、「三田らしい」文化芸術として、緑豊かな里山や街並みを活かしたガーデニングなどの特徴的な取組みも文化芸術と考えられます。

文化芸術基本法の「無形文化財」を広義に捉え、有形文化財以外の祭事などを保存、伝承することも文化芸術活動と考えます。さらに、観光、料理、サブカルチャーなど、日常生活に欠かせない分野も文化芸術活動に含まれると解釈します。

これからの10年にむけて～文化芸術ビジョンが目指すもの

基本テーマ：文化芸術活動を『ともに「する・みる・ささえる・つたえる」』～日常に文化がある、まちづくり～

活動する人⇒「する」 鑑賞する人⇒「みる」 活動を支援する人・組織⇒「ささえる」 伝える人・組織⇒「つたえる」

文化芸術活動は、4つの人・組織のそれぞれの活動で成り立っており、今後10年間の文化芸術を考える上で、ともに協力し合って取り組む必要があることから、本ビジョンの基本テーマとします。

各論

三田市の文化芸術を取り巻く5つの柱 目指す未来の姿と市の取組み

目指す未来の姿

I 文化芸術を通じた地域創生

- 市内の特色ある文化芸術に触れることで子ども達やその親世代も心豊かになり、更に観光振興、移住・定住の促進などにも活かされています。
- さまざまな文化芸術資源やそれに触れる機会についての情報が集約され、SNSなどさまざまな媒体の特徴を踏まえた発信が行われることで、市民の関心と参加の機運がともに高まっています。
- 市内の特色ある伝統・伝承文化や市民が創る文化芸術が、市民の誇りとなり、市民が文化芸術の創造や継承活動に積極的に関わろうとする機運が高まっています。

II 文化遺産の継承

- SNSなどを活用した多彩な文化遺産を知り、伝統的な芸能に触れる機会、それらを学ぶための情報が共有されています。
- これまでの伝承活動や習慣にとらわれない、多様な地域や立場の皆さんと担い手がつながり、楽しみながら伝える活動の輪が広がっています。
- “三田らしさ”のもととなる文化資源の掘り起こしや、地域への愛着を育む取組みが共有され、未来への連鎖となっています。

III 文化活動支援のあり方

- 市民が、文化芸術の振興について運営の協力などさまざまな方法で主体的に応援しようとする機運が高まっています。
- 市の支援制度は、多様な担い手やニーズを視野に入れて体系化されており、活動の公益性や自立度に応じた活用がなされています。
- シニア世代や子育て世代の文化芸術活動に対する意欲が次世代の育成につながっています。

IV 地域文化における共生

- さまざまな立場の違いに関わらず文化芸術活動を実践し鑑賞する機会が提供されています。
- 市民の誰もが多様な選択肢の中で日常的に文化芸術の創作活動に参加できる仕組みができています。
- 障害のある人や外国にルーツのある人、高齢の人などの創作活動や文化芸術活動が日常的に行われる社会となっています。

V 郷の音ホールの役割

- 郷の音ホールが学校での文化芸術活動に十分活用され、学生・生徒が質の高い文化芸術に直接触れるとともに、将来の施設の利用者としても成長しています。
- 広域圏の特色ある催しの象徴的拠点として郷の音ホールの知名度が上がり、集客が進んでいます。
- 近隣や市内の事業者が郷の音ホールの潜在力を活かした活動を行うことで市場価値を高めるとともに、認知度向上等に貢献しています。

市の取組み

～文化芸術でまちを元気にするために～

- 城下町ならではの特色を活かした三田らしい文化のまちづくりを進め、文化財の観光資源としての活用などにより市内外の交流・観光人口を増やします。
- SNSなどの活用、ネット環境に馴染みがない人には紙資料での提供など、さまざまな立場の人に届きやすい情報発信手段を充実することで多様な人々の参加のすそ野を広げます。
- 市の豊かな里山環境と広い都市公園などを備える特徴を活かし、市内外の文化芸術活動団体のさまざまな活動につなげていきます。

～特色ある文化遺産を伝えるために～

- 次代を担う子どもたちの教育にも活用できるよう文書による記録や写真、動画等の電磁的データでの記録保存を行います。
- これまでの文化財保護の枠組みにとらわれず、旧九鬼家住宅や百石踊り、三田青磁など貴重な文化遺産の活用や市民の学び、継承につなげるための仕組みをつくりまします。
- 伝統文化を未来につなぐため、魅力的なコンテンツやSNS等を活用して新しい情報発信を行います。まずは伝統文化を知ってもらうことがはじめの一歩となるよう取組みを進めます。

～文化芸術を元気にするために～

- 市内で開催される文化芸術活動の内容や支援制度、活動の意欲がある人々や団体に関するさまざまな情報を集約し、共有できる場をつくりまします。
- これまでの団体補助等を見直し、多様な団体・個人への支援へ転換していきます。
- 高校、大学、専門学校を核にした若者のネットワークを通じて、文化芸術の情報を提供する仕組みをつくりまします。

～すべての人々が関わるために～

- さまざまな立場の人たちが共に取り組む文化芸術活動を施策として推進します。障害の有無に関わらず合同での創作活動や発表の機会を提供します。
- さまざまな芸術表現や立場を越えた文化芸術活動について、どのような人たちが、どういった内容の活動をしているのか等の情報を共有できる仕組みをつくりまします。
- 文化芸術活動に多文化共生、社会福祉などのそれぞれの活動をつなぎ、多様な文化芸術に対する理解を共有します。

～郷の音ホールを活かすために～

- 市内小・中・高等学校等の施設利用を促し、文化活動や鑑賞事業のPRなどを通じて連携強化を進めます。
- 定期上演の場をもたない特色ある演目や活動の象徴的拠点化をすすめ、メディアへの登場の機会を増やし、広域からの集客を見込んだ運営を目指します。
- 事業企画や集客活動を神戸市北区などの近隣自治体のホールと連携して推進し、事業コストの抑制を図るとともに人流を促しホールの活性化につなげます。
- 経年劣化等に伴う施設及び設備の改修に相応の費用が必要となることから、施設の利用状況等も踏まえた中長期的な視点を持って今後の施設運営を行っていきます。